

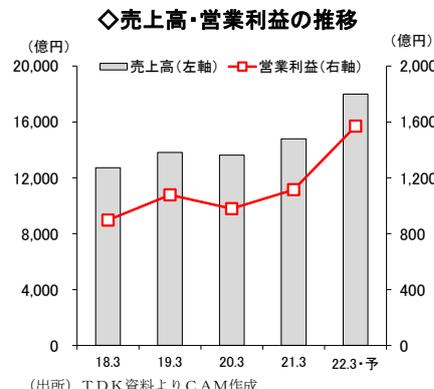
企業ニュース TDK

(東証1部 : 6762) <https://www.tdk.com/ja/index.html>

作成者: 村上大志

磁性技術で世界をリードする総合電子部品メーカー

1935年、世界初の磁性材料「フェライト」の事業化を目的に設立。磁性技術を活用した磁気テープや積層チップインダクタ（コイル）、ナノレベルの薄膜プロセス技術を応用した薄膜磁気ヘッドなどを開発し事業を拡大してきた。主な事業はMLCC（積層セラミックコンデンサ）やインダクティブデバイスなどの受動部品、温度・圧力センサや磁気センサなどのセンサ応用製品、HDD用ヘッドなどの磁気応用製品、二次電池などのエネルギー応用製品の4つ。21.3期のセグメント別売上高構成比は受動部品28%、センサ応用製品6%、磁気応用製品13%、エネルギー応用製品50%、その他3%。中期経営計画では、24.3期の売上高2兆円、営業利益率12%以上を目指す。



車載向けが好調で通期計画を上方修正

22.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は売上高が8,942億円、前年同期比29%増、営業利益が800億円、前年同期比28%増。自動車生産台数減少の影響を受けたものの、部品搭載点数の増加により、コンデンサやインダクティブデバイスなどが車載向けで好調だった受動部品が業績をけん引。主力のエネルギー応用製品は、スマホやタブレットなどモバイル向けでミニセルの販売が堅調に推移し増収となったが、パワーセルへの先行投資や原材料価格高騰などで減益となった。前期のロックダウンによる工場閉鎖影響により赤字だった磁気応用製品は黒字転換している。

22.3期の会社計画は売上高が1兆8,000億円、前期比22%増、営業利益が1,570億円、同41%増。自動車やスマホの生産台数予測を下方修正したが、電子部品の搭載点数増加及びアプリケーション拡大などから、売上高で2,000億円、営業利益で70億円の上方修正を行った。懸念されていたエネルギー応用製品の収益率は、価格転嫁やコスト改善などにより第1四半期から改善。今後もパワーセルへの先行投資が続くが営業利益率で15%前後は確保できるとのこと。赤字が続いていたセンサ応用製品では、MEMSセンサの顧客基盤拡大などにより収益性が改善しており、今期は赤字縮小、来期は黒字転換を見込む。

[株価動向・投資判断]

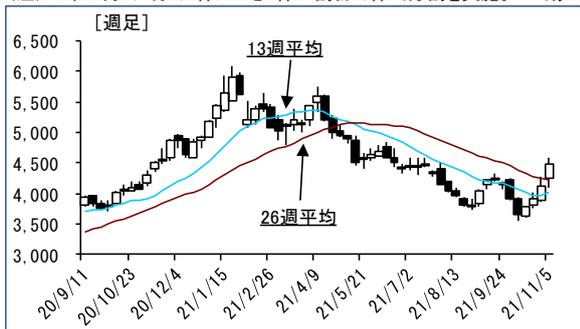
エネルギー応用製品とセンサ応用製品の収益性改善を評価したい。

<6762 TDK 業績:米国基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	1,363,037 (▲1)	97,870 (▲9)	95,876 (▲17)	57,780 (▲30)	457.5	180.00
21.3	1,479,008 (9)	111,535 (14)	121,904 (27)	79,340 (37)	628.1	180.00
22.3 予	1,800,000 (22)	157,000 (41)	162,000 (33)	110,000 (39)	290.3	136.00

(注)21年10月1日付で1株につき3株の割合で株式分割を実施。22.3期・予の1株配当は分割前第2四半期末100円と分割後期末36円の単純合計



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/11/5)	4,475 円
年初来高値 (高値日)	6,080 円 (21/1/21)
同 安値 (安値日)	3,560 円 (21/10/6)
予想 P E R (22.3 予)	15.4 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,867.0 円
P B R	1.56 倍
予想配当利回り	1.55 %
(分割考慮後1株当たり配当金年69.33円)	
R O E (21.3)	8.6 %
発行済み株式数	38,877 万株